富士見高原病院

病院は、生きもの。小さな変化を重ねて さらに成長し続けることが大切。

2Fリハビリテーションのフロアに設けられた、オストメイト対応のトイレ。イージーメンテナンスフロアの採用により、清潔さを保ちながらワックスがけの手間を減らすことができる。

1926年（大正15年）に創業。長野県厚生農業協同組合連合会（JA長野厚生連）が経営する富士見高原病院は、「遠くの親戚よりも近くの高原病院」をモットーに、地域から信頼される医療を実践しています。古くからある建物の老朽化や、患者さんの増加による狭小化などの理由により、2011年3月、再構築計画の一歩として、病院北西側に「診療棟」を新築。旧・富士病棟とリハビリテーション棟の機能を移動させた4階建ての新たな環境が、さらに充実した医療を支えています。

地域に根ざし、親しまれ続けるために、医療を継続しながらさらなる改善へ。

地域に根ざした医療で、大きな信頼を得ている富士見高原病院。近年の医療の高度化・複雑化に対応しながら医療環境をますます充実させるため、旧棟に隣接し行き来できる利便性の高いカタチで新棟を建設しました。医療を継続しながらの病院の再構築では、「機能」を優先してプランニングだけで解決するのではなく、「デザイン」も盛り込みながらホスピタリティの高い環境を実現。「病院は生きもの」であり、常に「成長と変化」を続けていくという視点から、地元で活躍する設計会社とパートナーシップを結び、トータルに病院を見つめていくことができます。新築にあたっては従来の病棟のデザインも盛り込み、ここが永く親しまれ続ける「富士見高原病院であること」にも配慮しています。

起伏のある地形を生かして建てられた新・診療棟。奥に見えるのが従来からの病棟。

［富士見高原病院］
- ●竣工年月／2011年3月
- ●所在地／長野県諏訪郡 富士見町落合11100
- ●施主／長野県厚生農業協同組合連合会（JA長野厚生連）
- ●設計監理／株式会社アーキディアック
- ●施工／北野建設株式会社
- ●設備施工／浦安工業株式会社
- ●病床数／149床（トータル）
- ●延床面積／約2,640㎡
- ●構造規模／鉄筋コンクリート4階建て

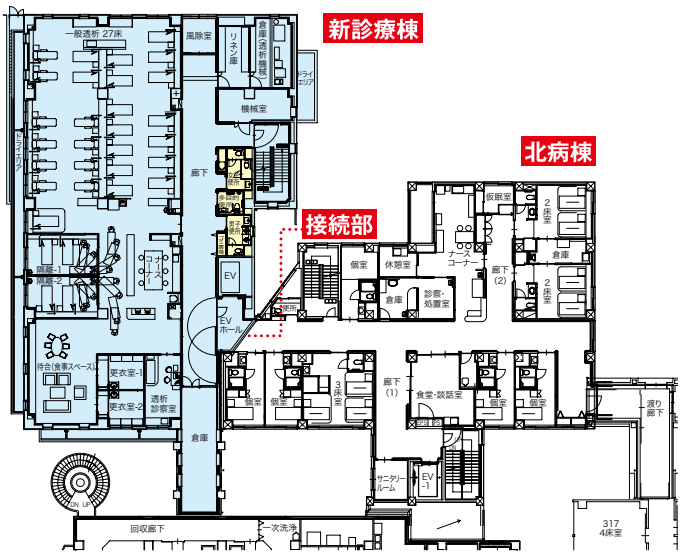
新・診療棟の1Fは検査室・整形外科外来、2Fはリハビリテーション室、3Fは透析室、4Fは会議室となっています。避暑地であることもあり、滞在者も含めて対応できるように透析室を広くし、従来の15ベッドから30ベッドへと増床。会議室は「癒しの時間」にも使ってもらえるように、病院祭、ピアノやバイオリンのコンサート、健康教室などのセミナーなどが開催され、地域との活発な交流が行われています。

広さや動線などをトータルに見直し。

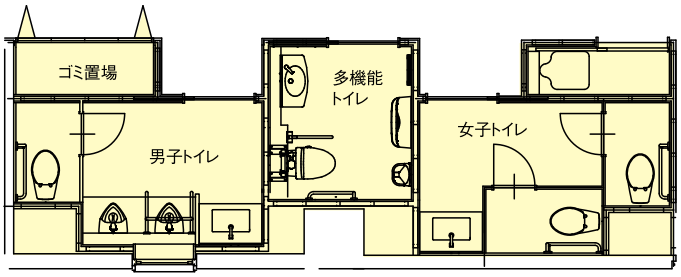
今まで狭かったスペースを広くして車いすがラクに通れるようにしたり、スタッフの行き来を患者さんの目にふれないスムーズな動線にするなど、すべての人々の立場からさまざまな改善を行いました。感染対策を兼ねた空気制御も重要なポイントでした。

全体が見渡せて管理のしやすい透析室。奥に見えるのがナースステーション。

新診療棟と北病棟との接続部分。



新・診療棟　3F平面図



新・診療棟　3Fトイレ詳細図

オストメイト対応や、子ども連れに配慮したトイレも充実。

敷地に制限があるなかで、トイレの空間は1～4Fまで同じ位置にまとめて設置。患者さんが使うところは、すべてウォシュレットかつ音姫付きにしました。また、今までになかったオストメイト対応のトイレを設置し、その使いやすさにも配慮。小さなお子さんといっしょに利用できる2種類の多機能トイレも設けました。ベビーシート、ベビーチェア、フィッティングボードなどを設置し、限られたスペースの中でも快適に利用できる空間になっています。

左／多機能トイレには、ベビーシート、ベビーチェア、フィッティングボードなどを設置。便器は壁掛けタイプ。寒冷地なので暖房便座は必須である。

中／男性トイレの小便器にも壁掛けタイプを採用。

右／動線のじゃまにならないコンパクトで流れの良い、節水対応の汚物流しを各所に設置。場所によって使いやすい高さが設定されている。

Voice　業務課・施設課の方からの声

患者さんにご理解いただけるよう配慮しました。

富士見高原病院
業務課・施設課 課長
山口健夫さん

この病院でできることを、しっかりやっていこうという方針で、検査の機器なども相当頑張って入れています。設備も環境も、充実させていきたいという思いがあるなかで、既存の建物を耐震化するのも困難でしたから、地域のために今回の増築工事に踏みきりました。まったく新しい更地にドンと建てるわけではなく、医療を継続しながらの工事でしたから、患者さんには音などの面でご理解いただけるように配慮しました。

設計のアーキディアックさんは地元なので、「現場からこういう意見が上がっているのですが、どうでしょうか?」などの小さな相談がすぐにできて、とてもたすかっています。

Voice　設計担当の方からの声

つくっていくプロセスも「生きもの」ですね。

株式会社アーキディアック
取締役／企画開発本部 部長　**立木勝さん**(左)
空間設計部 チーフ　**長澤真実さん**(右)

病院の建築・設計は、変化していく社会情勢や医療保険制度と密接な関係があります。そうした波に乗りながら経営していくために、病院は常に成長し続けることが必要です。多額を投じて一気に変革するよりも、先を見据えた工事を少しずつ続けて、いつも変化しているほうがいいという見方もあります。私たちは医療の最新の情報を入手しながら、時代と病院のニーズに合ったものをご提案し続けています。

また、設計の時間は限られていますから、現場の要望を取り入れながらつくっていくというプロセスも大切にしています。私たちも常に「成長と変化」を続ける存在でありたいですね。